

「美術館魅力向上ビジョン」の骨子案について（資料1）
事務局から説明。

（1）ビジョンの構成について

【委員】

・今の案は行政文章的な構成。庁内以外にも公開するのであれば、最初にサマリーのような形で方向性を示したほうが分かりやすい。

【委員】

・サマリー的なものは作られたほうが良い。現状に対する危機感、地域の中における美術館の存在感が希薄になっているのではないかということをはっきり言う。第2の開館を目指して、美術館が新しくなるということサマリーの中ではっきり示す。今回のものはすべてが入っているということで良いと思うが、次の段階、訴えるときにはそういう書きぶりが必要かと思った。

【委員】

・表紙にもある「ビジョン」という言葉は、使い方が違うのでは。ビジョンは「姿」なので、一行で言えないと「ビジョン」ではない。そこに向かうステップを考えるのが「ミッション」。職員全員が同じマインドセットを持てるような言葉があって、そこに向かってそれぞれのポジションでなにができるのかを考えていく視点が日本の美術館には欠けている。

【事務局】

・子供も大人も来たくなる（柱1）が「ビジョン」、柱2～4が「ミッション」に近い。美術館に対する人々の意識が変わること、いろいろな人、県民に美術館を誇りに思ってもらえることを目指したい。

【委員】

・そのことがはじめに一言書いてあったら整理しやすいのではと思う。

（2）ビジョン第4章について（小野田委員からの修正案も受けて、構成等で何かあれば）

【委員】

・庁内向けに、美術館が何をしたいのか、それぞれの部署で何をやらないといけないのかをはっきり項目だてしているのが小野田委員の案だと思うが、自分も構成としてはそのようにしたほうが良いだろうと思う。

・現状と課題というようにするのか、副題をつけるのかは見せ方の話だが、このままではま

ずいという脅威を言っていったほうが良いと思う。行政内部の資料としては、もう少し分かりやすい章立てにしてもいいのではないか。

【委員】

・いろいろな人に使ってもらえる、ということに重きが置かれていることもあり、美術館でないとできないことが弱まっている。コレクションがここにあること、この地域の歴史、美術を保つことで、この地域がどのような将来像を描いていくのか、ということをもみんなに気づいてもらう方法論は必要。今のままでは、過去に集めた所蔵品に頼ることになり、新しいコレクションの形成が難しくなる、ということもしっかり書いたほうがよいのでは。

【委員】

・施設面と機能面の記述は分けたほうが良い。
・現状・課題が書いてあるが、なぜそれができていないかの現状分析も必要では。
・キャッシュレス化のことが書いてあるが、これはすぐやればよいことなので、ここにわざわざ書く必要はないかと。
・説得性を持たせるために、もう少し数字データ、これまでの経緯なども入れたほうがよい。

【委員】

・(1) コレクションの部分、現状でハード的なことを書いて、かつ所蔵作品のことも入っているが、ここは分けたほうが何が問題か良く分かる。
・直近の問題はたくさんあると思うが、全部ここで拾うと焦点がぼやけてしまうので、簡単なことは日常的な業務の中で改善していった魅力向上はもう少し大きな流れの中に位置づけたほうが良い。
・10項目並べられると読む気がしないので、ブロック分けはしたほうがよい。前回の改修のこともあって、やはり美術館の存在感が薄れてきているところがあると思うので、発信にもっと力を入れるということを今後のスケジュールの中でも強く打ち出す。広報のことに触れる。アーカイブだけでなく、館そのものの発信の取組も必要。

【委員】

・スペースが足りない、子どものニーズに対応できていない、交通アクセス、認知度などの、本当に問題だと思われることをどこかにまとめて文章化する。脅威になっているポイントを書いたうえで、現状、課題を書いたほうが良い。問題点の重要度を整理して、第4章のまとめなどで列挙して示したほうがよい。

【委員】

・文化拠点、歴史拠点として滋賀県の美術の歴史を網羅的に見せるということは考えていな

いのか。

【事務局】

・やらないという決断はしていないが、現状では常設ができる部屋がないため、いわゆる郷土美術もアールブリュットやアメリカ・日本の近現代美術などとともに、常設展のローテーションに組み込まれてしまっている。コレクションを常設するための場所を拡充する必要があると考えており、郷土美術の常設は目指しているところ。ただそれを滋賀の美術の歴史を見せるためのものにするかというところはまだ検討していない、また、当館が所蔵している作品だけではできないだろうと思う。県内他館との協力が必要。

【委員】

・外の人に、滋賀の歴史をしっかりと見せられる場所になるように。現状それがないのであれば調査研究と収集を強化していくことも必要では。展示室もそれに合わせて計画していくんだ、ということであれば具体的なものになる。せっかくならミュージアムとしての王道みたいところは守ってほしいと思う。

【委員】

・大阪も美術館や博物館がたくさんあり、自分のところで全部やるのは無理だと割り切っている。ゆるやかに連携しながら、他館との協力関係を具体的に考えていくことも必要かと思う。県の中核施設としてリーダーシップをとっていったら良いのではないかな。

【委員】

・重要なのはポジショニング、何を見させたいのかということ。県側が目指していることと館がやりたいことがあるかと思うので、どの辺にプライオリティを置くのかを考えて作られたほうが良い。

(3) ビジョン第5章の柱建てについて

【委員】

・小野田委員からの提案はとても良いと思った。原案は、美術館がどのような場所なのか、自明のこととした書かれ方になってしまっている。小野田委員の修正案は、これが私たちの思い描いている美術館像だ、ということが聞こえてくる。みなさんの思い描いている美術館像を私たちは変えていきます、というアプローチになる。

【委員】

・アクションプランというものがあつたほうが、次につながりやすい。短期的にはこういう

2023.11.15 第3回美術館魅力向上検討部会
議事要旨

ことをして、長期的にはこうなりたいというものがあつたほうが課題のばらつきがまとまって良いと思った。

【委員】

・映像作品の収集のことが結構書かれていて、ギャラリーが空いているときに活用することも想定されているとのことだが、近辺の若手作家と一緒にやっていくような、コンスタントに活動できる取組をしたほうが良いと思うので、その点少し違うと思った。

【委員】

・これをする、ということが書かれているが、裏付け、実現可能性があまり見えないところがある。

【委員】

・「展開例」でなくて、議論すべき項目として具体的にこのことについて考えていくということ整理して、書き直したほうが良いような気もする。「柱1～柱4を推進するための基礎的な項目」の部分にも「展開例」と書かれていて、ぼやっとしてしまう。

【事務局】

・「柱1～柱4を推進するための基礎的な項目」については、今後館でビジョンを実現していくにあたって検討すべき項目だけ書いている状態。具体的な体制や取組みについては、来年度から検討していければと思う。

【委員】

・(柱4 コンベンション機能の記述について、この美術館が) ここ 20～30 年の社会の要請に応えられない施設環境になってしまっていて、このままだとこの館が取り残されてしまうということはあるかと思うので、そこは強く訴えても良いところかと思う。

・美術館でコンベンションをするから人が来る(美術館が魅力的なものになる)、みたいなことをうまく説明する。

【委員】

・プライオリティが分かりにくい。これができていないからこれをしたい、ということを示さないと、コンベンション機能の充実などもなぜそれをやりたいのか分からない。美術館が色々な機能を統合していて、ただ展示するだけの場所ではないというところがあるとは思いますが。

【委員】

・柱の題の次にくる記述については、前の章の「現状と課題」とを踏まえて、3～4行の文章にはすべき。「展開例」の記載のうち、目指していく方向性に関する記述については、リード文に入れ込んだ上で、展開例の部分はやることだけびしっと書いたほうが良い。漏れがないということは重要だが。

・「柱1～柱4を推進するための基礎的な項目」の部分は重要だと思うが、現状では最後にその他の項目として書かれているように見えてしまっている。美術館がやることと、県庁の他の部署や外部機関が担当することが混ざっているので、整理して書いたほうが良いかと思う。

【委員】

・条例や県の計画など、美術館がやりたいことと関わってくる可能性のあるものが見えるようにしておく、話し合いがしやすくなるように感じた。

【委員】

・柱4「いろんな目的に使ってもらえる」ということだが、美術館だからこそ様々なものの見方ができたり、地域文化の土台となれるんだ、という方向性のほうが良いかと思った。

・学校関係のことが出てこなかったが、それはあっても良いかと思った。

【委員】

・(柱4について、)うちの館でも様々な目的に使っている面はあるが、危ない部分もある。「飲食を含めて柔軟に使えるスペースの設置」なども、清掃の問題などもあり裏付けが必要になってくる。いろんな目的に、というのはキャッチーで良いが、美術館だからこそ、というところがあっての新しい美術館像ではあると思う。

【委員】

・あまり観光の視点が入っていないように思うが、戦略的に考えるとお金が付きやすいと想定される分野でもあり、また多様性というところで外国人のことも入ってくると思うので、そこと結び付けても良いのでは。

【委員】

・柱4の項目のうち、飲食スペースの話などいくつかは柱1にまとめられる。
・美術館だからできることが、柱2のコレクションの部分しかない。美術館がコレクションを持っているら地域にとってなにがプラスか言わないといけない。
・デジタルアーカイブの部分は、例えば遠隔にいる人にも情報を届ける手段になる、ということも謳っても良いかと思った。デジタルアーカイブ化の課題のところに「作品の登録がで

2023. 11. 15 第3回美術館魅力向上検討部会 議事要旨

きていない」などあるが、内部的な話はある程度書くことなのか。デジタルアーカイブ化とは別の話のような気がする。

【委員】

- ・（アーカイブ化の話は）ビジョンに書くことで予算化していく、ということもあるのだろうが、あれもできてない、これもできてないとは言わないほうが良いところもあるかと。
- ・資料の公開と研究は別問題。まず公開できるものはする、というのが良いかと思う。
- ・4本の柱については、言葉の表現上の問題も踏まえ、再編成を考える。
- ・「基礎的な項目」の部分はとても重要なので、「その他」という位置づけにならないようにしていただきたい。
- ・（小野田委員の案の）「覚悟の表明」というのは、本来のこの部会の中で、どのように触れたらよいかということは難しいような気もしたが、ここで検討した成果物として挙げるのであれば、「危機意識」であったり、「実現への力強い表明」という感じでもいけるのではないか。

（4）今後について

【事務局】

- ・この部会は今回で終了。いただいた意見を踏まえてビジョンを完成させていき、来年度に整備基本計画を作成する。その際には、会議という形ではないが個別にアドバイスいただければと思っている。

【委員】

- ・美術館単体のことで終わらせない。他の部署などの戦略の中にどのように落とし込んでいけるかが重要。また県庁内だけでなく、民間、一般の県民にも開いていくことも重要。パブリックコメントなど、一緒に考えていくことで県民の意識醸成につながり、問題の顕在化もできる。

【委員】

- ・公園内でも危機意識があるのは美術館なので、引っ張っていく必要がある。公園の Park-PFI 事業者など同じく危機意識を持っている人と、具体的な方策を考えていく。
- ・社会実験をやってみて、工夫によって人が来るか来ないかデータを取り、それを根拠に整備を進めていく。野外の活用、他施設との連携、大学を巻き込むなど実験をしていくための予算をとる。
- ・県美のポジショニング、位置づけの目指すところが柱の4になる。前段の節々にあるそうした言葉を拾いつつ、一方で覚悟というか、県美は県内の他の公共施設、類似施設と比較し

てこうだからここを目指す、ということを書かないといけない。

【委員】

・大学連携、公園関係など様々な観点でチーム体制を作っていく。コンスタントに話し合いのできるチーム体制を作ると、そこに関わった人たちに自分事と思ってもらえるのではないかな。

・県内の他のミュージアムや図書館、大学などとのコンスタントなネットワークが十分でないのなら、一緒にできることがないか、災害対策なども含め一緒に話し合う機会を作っていくと良いのではないかな。

【委員】

・滋賀県は新しい住民やファミリー層も厚い。そういった人達の意見をどうやったら吸い上げられるか。色々な意見の吸い上げは、従来の方法でないものでやっていかないと拾えないかと思う。

・この美術館の再スタートは重要なことだと思うので、庁内でも話せばみなさん協力してくれると思う。組織を変えるのは難しいと思うが、良い形の組織体を作っていたらいい。